

日高軽種馬農業協同組合

HBA

日高軽種馬農業協同組合

☎0146-22-2258 FAX 22-3452

令和5年11月20日

第 **402** 号



大賑わいを見せたうまカルフェスの様子

〈主 な 内 容〉

- オータムセールを振り返って……………2～3ページ
- 北海道市場1年を振り返って……………4～5ページ
- ひだか・ホース・フレンズたより……………6～7ページ
- 馬獣医のよもやま話……………8ページ

オートムセール 最後まで高い売却率を示す

10月16日～17日、オートムセールが開催された。本年は435頭が上場、330頭が取引となり売却率は75.86%、売上総額は13億1,241万円（以下、すべて税込）、平均価格は397万円、中間価格は313万円だった（比較については次頁参照）。売上総額と平均価格、中間価格はレコードを記録する結果となった。最高取引価格となったのは上場番号193番ジャポニカスタイル2022（牝・門別・(株)Blooming Farm）の1,980万円だった。

本年から始まったNARのネクストスター競走。2歳戦は南関東を除く、各地方競馬場で1,000万円という高額な1着賞金を巡り熱戦が繰り広げられているが、オートムセール取引馬からは盛岡のフジュージーン、笠松のワラシベチョウジャがそれぞれ勝利を飾っている。また、ホッカイドウ競馬ではブラックバトラーがブリーダーズゴールドジュニアカップを、園田競馬ではコモリリーガルが園田プリンセスカップを勝利し、重賞ウイナーも誕生した。JRA2歳戦ではギヴイットアゴーとレオエンプレスがメイクデビュー戦を勝利し、古馬戦ではパウオレがオープン昇級初戦のながつきステークスで2着に好走するなど、素質馬が芽を出し始めている。

迎えた初日は197頭が上場となり、序盤こそ落ち着いた取引が目立っていたが、再上場を含め中盤からは勢いがつき始め最終的に78.68%の売却率を記録した。社台グループやダーレー・ジャパンなど大手牧場の上場もあり、上場番号7番ハートシェイプト2022（牝・千葉・社台ファーム）は、前週の東京競馬で4勝の固め打ちとなったイスラボニータの産駒。300万円のファーストビッドから始まり、最初から最後まで場内とオンラインからの競り合いとなり、最後はオンラインでの参加となった村野康司氏によって1,540万円での落札となった。初日も終盤に差し掛かった頃、本セールでは1頭の上場となっ

たファーストシーズンサイアー首位をひた走るスワーヴリチャード産駒の上場番号193番ジャポニカスタイル2022（牝・門別・(株)Blooming Farm）が登場。500万円のファーストビッドから始まると場内各所から声が上がり1,000万円を超えていく。するとそこからはオンラインからもビッドが入ると熱が高まり最後はこちらもオンラインから河野勇樹氏が1,980万円での落札となった。

再申込馬のみで構成される二日目は、終始堅調な取引となり238頭の上場で、売却率は73.53%を記録した。この日からはセクションセールでは主取りとなっていた上場番号343番アドマイヤマリリン2022（牡・静内・高橋義浩）が1,870万円での取引となり、この3か月で大きく評価を変える結果となった。本馬を含みセクションセールからの再申込馬は14頭が取引となっており、その平均価格は908万円と全体での指標を大きく上回る結果となっている。サマーセールからの再申込馬は114頭が取引となり平均価格が343万円なのだからいかに突出した数字なのかが分かる。

古川組合長は「セプテンバーセールまででだいぶ購買いただいていたので、競馬場に馬が入るスペースがあるのかと心配してしまし
(次頁へ続く)



最高落札価格馬：ジャポニカスタイル2022
門別・(株)Blooming Farm

たが、昨年並みの購買登録もあり、最後まで活発に参加していただいて感謝の一言です。なかでも良血の牝馬が高い評価を得たことから、競走だけではなく繁殖としての価値も見られて購買いただいていた印象があります。最高価格馬がオンラインからだったことも、実馬を見なくても購買いただけるような

環境が少しずつ整ってきた結果かと思います。1年を通して目標を超える売上がありましたが、来場していただける環境づくりができたかどうかはまた別の話なので、来年はより良い環境づくりを目指して頑張りたいです。」と振り返った。

【オートムセール 5年間の比較】

	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年
平均価格	↗ 3,977,000	↗ 3,926,231	↗ 3,646,436	↗ 3,451,890	↓ 3,199,281
中間価格	↓ 3,135,000	↗ 3,300,000	↓ 2,970,000	↗ 3,190,000	↓ 2,750,000
出場頭数	↗ 435	↓ 426	↓ 457	↗ 466	↓ 432
売却頭数	↗ 330	↓ 329	↓ 348	↗ 365	↓ 320
売却率	↓ 75.86%	↗ 77.23%	↓ 76.15%	↗ 78.33%	↗ 74.07%
売上総額	↗ 1,312,410,000	↗ 1,291,730,000	↗ 1,268,960,000	↗ 1,259,940,000	↓ 1,023,770,000
購買登録者数	↓ 1086(55)	↗ 1095 (65)	↗ 1058 (62)	↗ 1,004	↓ 801
購買実数	→ 258	↗ 258	↓ 242	↗ 243	↓ 223

※ 単位（円、頭、名）、価格は税込、矢印は前年対比
 ※ 令和3年の（ ）内はオンラインによる登録者数

馬産地日高活性化PR事業 大井競馬場で開催

北海道日高振興局とHBAおよび各町・観光協会などが北海道日高地域をアピールする馬産地日高活性化PR事業のイベントが10月5日（木）に大井競馬場にて実施された。

この事業は、競馬ファンに向けた日高の観光PRを目的として毎年実施されているが、今年は3年ぶりに現地での開催となった。PRブースを設置し、来場者へ日高昆布を配布したほか、日高の特産品や馬産地ならではのグッズの販売とともに、場内のモニターでPR動画を放映した。また、あわせてホッカイドウ競馬のグッズが当たるガチャ抽選会を実施した。

当日は好天に恵まれ、メインレースが重賞（Jpn2レディスプレリユード）ということもあり、開場から多くの来場者が訪れ、物販商品や展示ポスターに足を止めていた。

当日の競馬場への来場者は4,599人にのぼり、多くの競馬ファンに向け、馬や食、雄大な自然といった日高の魅力をPRする機会となった。



賑わいを見せるPRブース

北海道市場 1 年を振り返って

トレーニングセール／売却率 8 割に迫る過去最高の 78.4% を記録

札幌競馬場でおこなわれたトレーニングセールでは、上場頭数が 116 頭とやや寂しい印象があったものの、公開調教では各馬が好仕上がりアピールし堅調な取引が見られた。

結果は、総売上額は 6 億 6,704 万円、平均価格 733 万円、中間価格 660 万円、売却率 78.4% を記録した。平均価格は昨年比減となったが、中間価格と売却率は過去最高を記録したことからも一定以上の需要はあったと推察される。なお、ピサノプリヴェ 2021（門別・(有)下河辺牧場）が最高落札額となる 2,420 万円で取引された。

セレクションセール／シニスターミニスターの牡駒が 1 億 340 万円で落札。

セレクションセールでは、昨年に引き続き 2 日間開催で 295 頭が上場となり、昨年の最高価格（7,260 万円）を上回る馬が 4 頭現れるなど、終始大盛況となった。ここにおいてもシニスターミニスター産駒、ヘニーヒューズ産駒、ホッコータルマエ産駒といったダート系種牡馬産駒は売却率 100% を記録するなど、高い存在感を示した。

結果は、総売上額は 62 億 1,137 万円、平均価格は 2,292 万円、中間価格 1,870 万円、売却率 91.9% となりすべてレコード更新となった。最高落札額となったのは大人気シニスターミニスター産駒、カーニョミノル 2022（静内・(有)フジワラファーム）の 1 億 340 万円となり、北海道市場では 22 年ぶりの 1 億円ホースの誕生となった。

サマーセール／総売上額 82 億 5,935 万円を記録。新時代の種牡馬が存在感を示す。

5 日間開催のサマーセールは、過去最多の

1,368 頭が上場となった。過去に例を見ないほどの暑さのなかでの開催となったが、高い購買熱を感じる結果となった。ここでは 2 歳戦で勝ち上がりを連発していたスワーヴリチャード産駒が人気を集め、8 頭が上場となり平均価格は 1,604 万円と、高水準での取引が目立った。

結果は、総売上額 82 億 5,935 万円、平均価格 773 万円、中間価格 583 万円、売却率 78.1% となり、初めて総売上額が 70 億円を突破した昨年よりも 12 億円近い売り上げ増となった。最高落札額となったのはキタサンブラック産駒のバルスピュール 2022（荻伏・(有)小島牧場）の 5,940 万円だった。

セプテンバーセール／総売上 23 億 1,330 万円はレコード更新。売却率 75.6% も高水準。

セプテンバーセールでは、昨年に続き 3 日間の開催となり、532 頭の上場馬から多彩な種牡馬産駒が揃うなか、新種牡馬フォーウィールドライブ産駒が 10 頭上場ですべて取引となり、平均価格は 718 万円を記録した。また、1,000 万円を超えるような高額な取引も目立ち、1,000 万円を超えた取引馬の数は昨年の 29 頭から大きく増加し、57 頭となった。

結果は、総売上額 23 億 1,330 万円、平均価格 575 万円、中間価格 440 万円、売却率 75.6% となり、売却率を除く指標についてはレコード更新となった。最高落札額となったのはスワーヴリチャード産駒のヒシストーミイ 2022（門別・若林順一）の 2,750 万円だった。

オートムセール／初日の平均価格は昨年比 40 万円増。最高価格は 1,980 万円

オートムセールは、新規申込馬 197 頭、再申込馬 238 頭の計 435 頭が上場となり、2 日

間の開催となった。ここでは2日目上場のアドマイヤマリリン2022（静内・高橋義浩）や、ペブルガーデン2022（静内・㈱タイヘイ牧場）といったセクションセールからの再申込馬が存在感を示したほか、5頭上場しすべて取引となったロジャーバローズ産駒が、平均価格743万円を記録した。

結果は、総売上額13億1,241万円、平均価格397万円、中間価格313万円、売却率75.9%となり、昨年よりポイントを落とす指標もあったが、70%の売却率を維持したことで概ね堅調な売上となった。最高落札額は、ここでもスワーヴリチャード産駒のジャポニカスタイル2022（門別・㈱Blooming Farm）の1,980万円だった。今年も過去最高だった昨年より22億円増の187億6,347万円の売上を記録した。1歳市

場ではすべてのセールで前年を上回る売上を記録し、改めて購買熱の高さを感じる1年となった。

1年を古川組合長は「馬券の売り上げも好調で、地方競馬の三冠路線もできたことで、自らの競馬場からスターホースを出したいという思いから補助馬購買も活発になったことなどが積み重なって、ものすごい恩恵があったと思います。また、課題として今年は特に暑い日もありましたし、市場設備を含めた環境づくりをして多くの方に来てもらえるように、クオリティを高めたセリをしていきたいですし、今の数字を維持できるように、良い馬を上場してもらえるようなセリにしていきたいです。開催日程についても、様々な案が出てきているなかで、より良い日程となるように話を進めたいです。」と振り返った。

【北海道市場 5年間の比較】

	令和5年		令和4年		令和3年		令和2年		令和元年
平均価格	↗	8,678,756	↗	8,021,238	↗	7,331,614	↗	7,004,016	↓ 6,213,287
出場頭数	↗	2,746	→	2,629	↗	2,629	↓	2,362	↗ 2,591
売却頭数	↗	2,162	↗	2,059	↗	1,983	↓	1,825	↗ 1,901
売却率	↗	78.73%	↗	78.32%	↓	75.43%	↗	77.27%	↗ 73.37%
売上総額	↗	18,763,470,000	↗	16,515,730,000	↗	14,538,590,000	↗	12,782,330,000	↗ 11,811,458,000

※ 単位（円、頭）、価格は税込、矢印は前年対比

助成金申請種類提出のお願い（レポジットリー・セリ馴致預託料）

補助金申請書類の提出期限は12月8日（金）です。

期日を過ぎた場合、補助金交付の対象外となりますのでご注意ください。

レポジットリー

- 申請書
- 撮影料請求書・領収書の写し

セリ馴致預託料

- 申請書
- 預託契約書の写し（捺印についてご確認ください。）
- 預託料請求書・領収書の写し

※FAX（0146-43-3464）での提出も可能です。

お問い合わせは 軽種馬農協 業務部（0146-42-1200）までお願いします。



ひだか・ホース・フレンズ たより

ひだか・ホース・フレンズは運営開始から11月で2年7カ月が経過し、研修にはこれまでに延べ48名（実参加者42名）の参加がありました。本年4月からは、NAR競走馬生産振興事業の補助事業として選定され事業を行っております。11月現在の近況についてお知らせします。

事業主体 日高軽種馬振興対策推進協議会（HBA へ業務委託）

運営場所 HBA 門別種馬場施設

飼養馬 9頭 引退競走馬4頭（ディープスカイ・メイショウサムソン・メイショウアイアン・メイショウボーラー）・功労繁殖牝馬 1頭・ハフリンガー 4頭

研修の受け入れ状況

おとし秋の受け入れ開始から本年3月までに、（延べ人数）短期研修 30 名、長期研修 6 名の参加がありました。本年4月からは受け入れ方法の見直しを行い、参加期間は2泊3日以上（5日間以上を推奨）最長を1か月間とし、事前面談による参加目的・目標の確認を行っております。また求職希望の方には、求職者登録、候補先の検討、インターンの申込など、予め準備をするようアドバイスを行っております。4月から10月までに12名の参加があり、2名の方が管内の牧場へ就職されています。

研修内容は、集放牧、馬房清掃、飼葉づくり、手入れのほか草刈りなどの作業を行っております。厩舎作業の基礎について、研修生のレベルに合わせた実習を行い、作業の意味などについても解説しています。滞在は構内の空き住宅を使用し、食事は参加者による自己対応としています。

事業開始から複数回参加を除いた実参加者は42名で、年齢は10代から40代まで、性別は男性27名、女性15名となっております。参加者の職業は、求職中の方、別の仕事に在職されている方、大学生など様々で、全国各地からの参加があります。このうち馬産業へ研修や就職し11月現在も定着している方が11名（推計）、長期研修やインターンなど次段階に進むも離れてしまった方が5名となっております。研修後、各自就農について思案されており、独自で就職活動を行っている方、準備段階にある方、在学中の方など、今後候補となりえる修了生がおります。

参加者アンケートでは、馬の仕事についてより興味が深まったとの声が多く寄せられており、JRA ほか関係団体からも「就業体験の実施は担い手確保の面から有効である」と評価を頂いております。





村上善巳 場長コメント

私はこれまで育成馬を中心に扱っていましたが、引退馬たちと接していく中で飼養管理の違いを感じ、日々細心の注意を払いケアに努めております。引退馬、功労馬は新しい分野ですので、これまでの経験を生かし、飼養馬たちが1日でも長く生きることが出来るよう努め、「命を守っていく」ことについて伝えてゆきたいです。

私は未経験から馬に乗り、馬の仕事に携わってきました。周囲からの支えがあり、私でも出来た仕事だと思っております。馬から教わることもたくさんあります。特段難しいことは無く、やる気と一歩を踏み出す勇気があれば出来る仕事であること、仕事の楽しさなどを生徒たちに伝えていきたいです。今は種を蒔いている段階で、今後研修生が各方面で活躍する姿に期待しております。

研修生に牧場現場を見せてあげたいと思っておりますので、組合員の皆様には実習の受け入れなどについてご協力をお願いいたします。



※ 研修生の受け入れについて

研修生の求職活動は、研修生自らハローワークを通じて行うこととしています。

事務局では、牧場選択の参考資料となるよう受け入れ可能な牧場をリストアップし、研修生へ資料提供を行っています。掲載希望の方は各地域 JA の営農担当者様を通じ申し込みください。

牧場の様子は SNS で発信しております。

お問い合わせは 日高軽種馬農協 業務部 0146-42-1200 まで

うまカルフェス開催される

10月28日（土）北海道市場で、うまカルフェスin新ひだか（主催：新ひだか町）が開催された。うまカルフェスは馬文化を発信するイベントとして開催され、藤沢和雄元調教師と角居勝彦元調教師によるスペシャルトークショー、オークス馬・ユーバーレーベン号の展示、チャリティーオークションなど様々な催しがあり、開場前から駐車場前に渋滞ができるなど、この日を心待ちにした多くの人が町内外から集まり、なかには道外からの観光客もいたほどだった。

チャリティーオークションでは、北海道市場の鑑定人、スポッター陣が会場を盛り上げ、タイトルホルダー号の有馬記念出走時使用のゼッケンが最高価格となる52万円で落札となるなど、落札総額は185万1000円となり、その全額が認定NPO法人引退馬協会へ寄付された。

新生子溶血症(黄疸)について

日高軽種馬農協荻伏診療所 和智荘平

生産牧場の皆様は新生子溶血症(新生子黄疸)という病気を過去に遭遇された方はいらっしゃいますでしょうか。今回は新生子溶血症について書かせていただきます。

通常ウマは赤血球に対する抗体を持っていませんが極一部の血液型を有する母馬が妊娠中もしくは分娩時の胎盤を介した出血などにより、胎子の赤血球が母馬の体内に入った際に、新生子馬の赤血球を壊してしまう抗体が作られます。その抗体を持った母馬の初乳を新生子馬が摂取すると、新生子の赤血球を異物と認識して攻撃し、赤血球を壊し(溶血)、貧血や黄疸が引き起こされ新生子溶血症が発症します。発症率は0.1～0.2%といわれています。

新生子溶血症の出生後から発症までの時間や症状の程度は、子馬の初乳の吸収状況と母馬の抗体の保有程度によって様々です。症状の発現は早いものでは出生後6時間以内、遅いものでは生後5日目くらいで発症する仔馬もいます。症状としては呼吸数や心拍数の増加、元気消失による哺乳回数の減少、さらに血色素尿(赤色の尿)が認められます。溶血に起因する貧血により、発症初期には目や口の粘膜は蒼白色となり、その後黄色化(黄疸)が認められるようになります(写真1)。

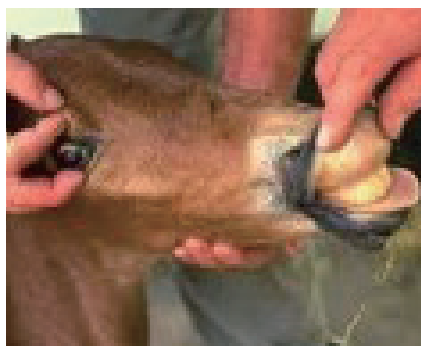


写真1: 粘膜の黄色化

症状が悪化すると沈鬱状態、脱水などが加わり重症例では低酸素症ショック、神経症状、多臓器

不全、敗血症などを併発し死亡する場合があります。

この病気の発症や進行を防ぐためには出産直後の子馬の観察と迅速な処置が必要となります。

新生子溶血症を発症した場合、速やかに初乳摂取を中止し、貧血の状況によりユニバーサルドナー馬(写真2)からの全血輸血を行います。

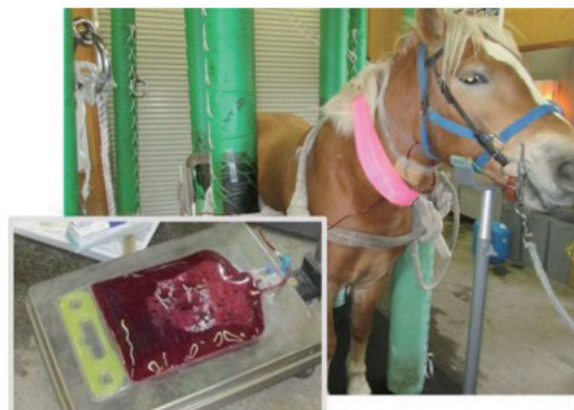


写真2: ハフリンガー種のユニバーサルドナー馬
馬の資料室: 馬の輸血とユニバーサルドナー (jra.jp)より抜粋

新生子溶血症を発症した子馬の母馬は次以降の産駒に対しては、生後24～36時間まで口かごを装着することで初乳の摂取を防止し(断乳)、ストックされた他馬の初乳を投与します。

子馬にとって初乳というのは非常に大切なもので、もし初乳により免疫成分を獲得できないと、仔馬自身で抗体を作れるようになるまで1～3ヶ月の間感染症の危険にさらされることになります。

最後になりますが新生子溶血症は早期発見と治療によって十分な回復が見込めます。初乳摂取後の子馬を注意深く観察し、普段との違いに何か気づかれましたらかかりつけの獣医師に相談されることをお勧めします。

今回のお話が生産牧場の皆様の一助になれば幸いです。